



認知症について

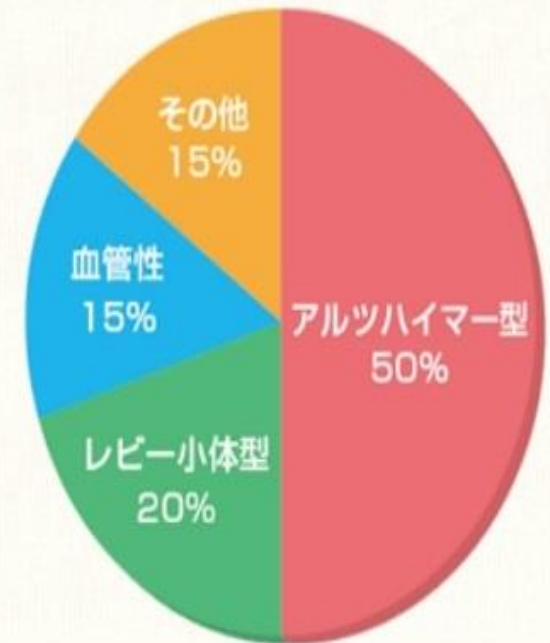
認知症とは

- 何らかの原因で脳の神経細胞が壊れていく進行性の疾患。
- そして、生活全体に支障をきたす状態の事を言います。
- 65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されている。



もの忘れと認知症の違い

	老化によるもの忘れ	認知症
原因	脳の生理的な老化	脳の神経細胞の変性や脱落
もの忘れ	体験したことの一部分を忘れる (ヒントがあれば思い出す)	体験したことをまるごと忘れる (ヒントがあっても思い出せない)
症状の進行	あまり進行しない	だんだん進行する
判断力	低下しない	低下する
自覚	忘れっぽいことを 自覚している	忘れたことの自覚がない
日常生活	支障はない	支障をきたす



認知症のほとんどを占める、三大認知症

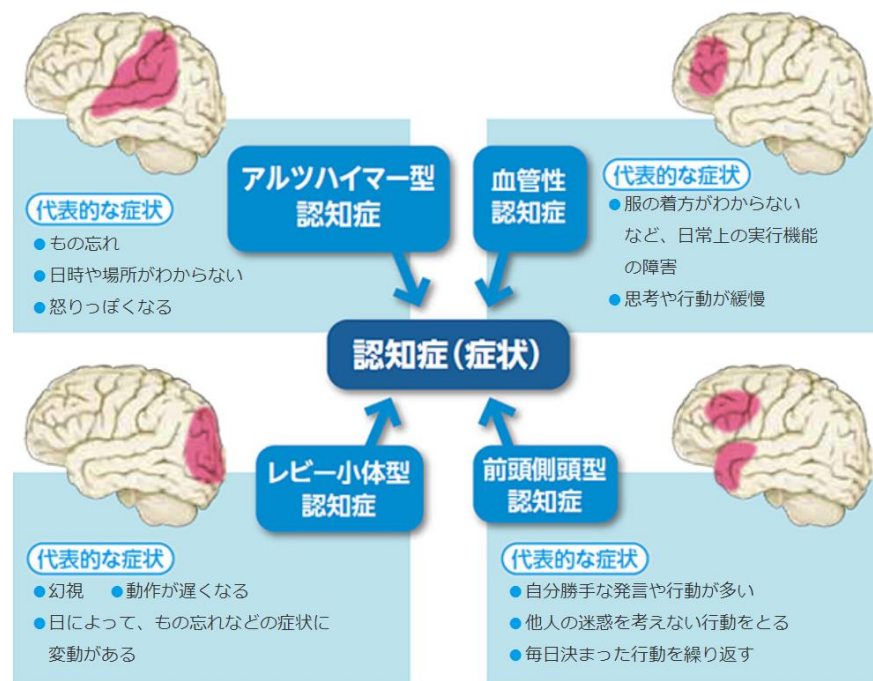
➡ 3大認知症は治る疾患ではない

認知症の種類

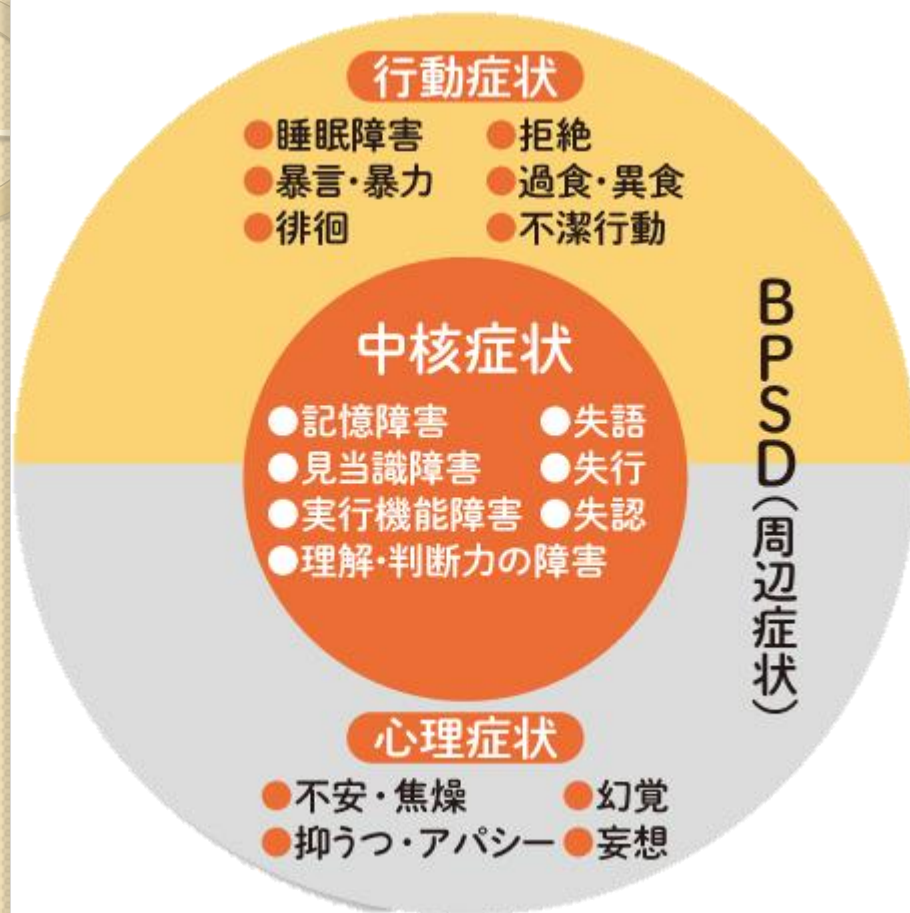
- アルツハイマー型認知症
- 脳血管性認知症
- レビー小体型認知症
- 前頭側頭型認知症
- Etc . . .

それぞれ脳のダメージを受けている部分が異なる

※若年性認知症 ⇒ 64歳までをいう
これは認知症に分類されない



認知症の症状について



【中核症状】

脳神経細胞の減少の程度によって、進行していく。

【周辺症状】

環境が病気の進行よりも重要。周辺症状を抑えることができれば、より良い治療やケアを行うことができる。

アルツハイマー型認知症

- ベータたんぱくやタウたんぱくという異常なたんぱく質が脳にたまって神経細胞が死んでしまい、脳が萎縮してしまいます。記憶を担っている海馬という部分から萎縮が始まり、だんだんと脳全体に広がるのが原因。

- **記憶障害**

代表的な中核症状。物忘れ、記憶の欠損等。

- **見当識障害**

自分がいる場所や時間などを正しく理解できない ⇒ 徘徊

- **実行機能障害**

動作や手順が分からなくなり、段取りを組めなくなる。

- **理解・判断力の低下**

状況変化に応じた判断が行なえない。

その他の特徴

- ・ 女性に多い（女性の方が男性よりも長生きするので、その割合が多くなる）
 - ・ 自覚が少なく、徐々に進行する。
- また、たとえ混乱していてもそれを周りに悟られないように振る舞う事がある。

脳血管性認知症（脳梗塞・脳出血）

- 脳の血管が詰まる「脳梗塞」や血管が破れる「脳出血」など脳血管に障害が起きますと、その周りの神経細胞がダメージを受けることが原因の認知症

- 運動障害

尿失禁、握力低下、麻痺、足を引きずる、ろれつが回らない等

- 精神状態の不安定化

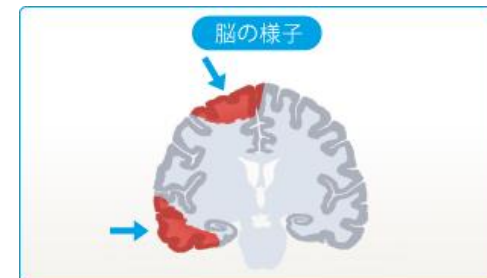
不安や怒りが強く、うつ状態に陥る。徘徊・せん妄・感情失禁等の症状が見られる

- 実行機能障害

動作や手順が分からなくなり、段取りを組めなくなる。

その他の特徴

- ・ 男性に多い
- ・ 症状の進行とともに生活習慣が乱れ、深夜の徘徊等が現れる
- ・ 原因となる疾患によって異なるが、比較的急に発症し、段階的に進行していく



脳梗塞や脳出血がみられる。

レビー小体型認知症

- 脳の広い範囲にレビー小体という異常な蛋白がたまり、脳の神経細胞が徐々に減っていく進行性の認知症

- パーキンソン症状

表情に乏しく、筋肉のこわばりがある。動作は緩慢で、すり足で歩く

- 幻視

実際にはいない小動物や虫、子供などが部屋にいると訴える

- 動揺性のある認知症状

調子の良し悪しが明瞭。同じ薬服用しても、効き目に波がある。

その他の特徴

- ・ 調子が良い時と悪い時を繰り返しながら、進行する。時折、急速に進行することがある。

前頭側頭型認知症

- 原因はハッキリと判明していないが、脳の前頭葉と側頭葉の神経細胞が少しずつ壊れていくことによって、様々な症状が出てくる認知症
- ルールを守ったり、他人に配慮したりすることができなくなり、周りの状況にかかわらず、自分が思った通り行動してしまいます。たとえば、万引きや信号無視、同じ所をぐるぐると回る周回、このほかこだわりが強くなったり、毎日決まった時間に決まったことをする、といった反復行動をとるようになるのが特徴。
- これらの他に、精神不安定や、異食等の行動が見られる。
- 頻度については明らかにされていませんが、認知症専門外来を受診する方の7%程度がこの病気だというデータがあります。

認知症の兆候

◆もの忘れがひどい

- ☐ 1 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- ☐ 2 同じことを何度も言う・問う・する
- ☐ 3 しまい忘れ・置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- ☐ 4 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

◆判断・理解力が衰える

- ☐ 5 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- ☐ 6 新しいことが覚えられない
- ☐ 7 話のつじつまが合わない
- ☐ 8 テレビ番組の内容が理解できなくなった

◆時間・場所がわからない

- ☐ 9 約束の日時や場所を間違えるようになった
- ☐ 10 慣れた道でも迷うことがある

◆人柄が変わる

- ☐ 11 些細なことで怒りっぽくなった
- ☐ 12 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- ☐ 13 自分の失敗を人のせいにする
- ☐ 14 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

◆不安感が強い

- ☐ 15 ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- ☐ 16 外出時、持ち物を何度も確かめる
- ☐ 17 「頭が変になった」と本人が訴える

◆意欲がなくなる

- ☐ 18 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- ☐ 19 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ☐ 20 ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる

認知症のケアの為に知っておきたいことと、接し方

• 知っておきたいこと

1. プライドは失っていません
2. 過去と現在が混同しています
3. 自分をもどかしく思い、心的にも不安定です
4. 看護する人の気持ちが伝わり、それが病状にも反映されます
5. **認知症の人の言葉が、100%の訴えだと勘違いしてはいけない**

• 接し方

1. 本人のペースに合わせ、本人の思いを理解しましょう
2. 話に共感し、安心できる環境を作りましょう

最後に

- 今回、認知症について改めて勉強し、認知症の患者さんへの理解が深まりました。ここで学んだことを参考に、今後の看護に活かしていきたいと思います。



ご静聴ありがとうございました

出典

- 相談e-65.net

<http://sodan.e-65.net/>